

〔研究会報告〕

## 第2回ハワイ仏教文化財研究ワークショップ 「ハワイ仏教文化財・調査報告2022」

守屋友江

MORIYA Tomoe

### はじめに

本ワークショップは、JSPS 科究費基盤研究 (B)「ハワイ日系仏教寺院所蔵の新出資料・文化財による領域横断的な仏教史研究」(20H01190、研究代表・安中尚史)による調査に基づく研究成果報告である。この科研プロジェクトは、仏教史、仏教学、文化財保存修復学、日系アメリカ移民研究、文化人類学、民族音楽学を専門とする研究者と海外布教経験の実績豊かな僧侶という、領域横断的なメンバーからなるチームで、2022年度は2022年8月と2023年1月に曹洞宗、浄土真宗、日蓮宗、浄土宗の各寺院を訪問し、調査を行った。今回のワークショップは2022年8月の調査に基づく報告である。

科研費による現地調査は、新型コロナウイルスによるパンデミックのため開始が遅れたものの、今回の登壇者6名と平井智親氏(日蓮宗安国論寺住職、元ハワイ日蓮宗別院)の計7名で行い、ハワイの日系仏教各宗派寺院などに遺された「新出の文献資料(一次資料)および文化財(モノ資料)」<sup>1</sup>を調査した。この科研プロジェクトでは、2021年9月26日に第1回ハワイ仏教文化財研究ワークショップを開催し、第2回目は南山宗文化研究所を共催として下記の通り開催し、日本とアメリカから38名の参加者があった。

日 時 2022年12月3日(土)13時~15時

会 場 オンライン (Zoom)

---

1. 「ハワイ日系仏教寺院所蔵の新出資料・文化財による領域横断的な仏教史研究」科学研究費助成事業データベース <<https://kaken.nii.ac.jp/ja/grant/KAKENHI-PROJECT-20H01190/>> 2023年5月31日閲覧。

- 発表者 笹岡直美氏（東北芸術工科大学）「調査概要報告」  
守屋友江「移民の定住とハワイ開教—ハワイ本派本願寺所蔵資料より」  
石井清純氏（駒澤大学）・南原一貴氏（曹洞宗総合研究センター）「ハワイ正法寺の三十三観音と駒形コレクションの史的価値」
- 司会 安中尚史氏（立正大学）、中原ゆかり氏（愛媛大学）
- 主催 ハワイ仏教文化財研究、科研費基盤研究（B）20H01190
- 共催 南山宗教文化研究所

## 研究プロジェクトの概要

日本仏教の研究において、日本国内にない在外資料については、その資料が所蔵される諸外国において十分な資料調査が行われていない。とりわけハワイの日系仏教徒は百数十年の歴史において、1941年の日本軍による真珠湾攻撃後、アメリカ政府による僧侶の逮捕・抑留や寺院閉鎖を経験している。幸い戦後も寺院は存続しているが、現在は信僧侶や信徒の多くが日本語話者でなくなっているほか、徒数の減少で閉鎖となる寺院があり、また気候的に温暖湿潤で虫害も多いため、資料の散逸や破損が起きやすい状況である。このため、草創期からの貴重な記録である紙の一次資料のほか、人々の信仰の拠りどころである仏像や仏具などの仏教文化財も破損のおそれがあり、各寺院で対応に苦慮している。先行研究は主に一次資料を研究対象としており、仏教文化財はその意義が見落とされがちだが、今回の調査で新たに判明したように、紙の一次資料に勝るとも劣らない情報が含まれている。こうした現状から、本プロジェクトでは移民一世の時代から続くハワイ仏教史を実証的に明らかにする一次資料と仏教文化財を調査して体系化し、現地の僧侶・信徒の方々が将来にわたって継承できるよう研究を進めている。

## 発表の概要

### 笹岡直美氏「調査概要報告」

まず2022年8月の調査で、曹洞宗（両大本山ハワイ別院正法寺、アイエア太平寺、ワイパフ大陽寺、ワヒアワ龍仙寺）、浄土真宗（ハワイ本派本願寺別院）、日蓮宗（ハワイ日蓮宗別院）の各寺院で調査を行い、東本願寺ハワイ別院とハワイ浄土宗別院を訪問したことを報告された。笹岡氏は文化財保存修復学を専門としており、曹洞宗両大本山ハワイ別院正法寺、ハワイ本派本願寺別院、ハワイ日蓮宗別院が所蔵する仏教文化財の破損状況の調査と、ワイパフ大陽寺に環境調査のため設置した温湿度データロガーと害虫調査用トラップ、ならびにハワイ日蓮宗別院に設置したデータロガーと湾曲した写真資料への対応について調査結果に基づく分析をされた。今後も環境調査を継続しつつ、

修復が必要な仏教文化財の適切な管理について情報を収集することが今後の課題であると報告された。

### 守屋友江「移民の定住とハワイ開教—ハワイ本派本願寺所蔵資料より」

守屋はハワイの日系移民における仏教の意義について、ハワイ本派本願寺所蔵資料をもとに報告を行った。戦前の主要産業であった砂糖プランテーションで働く日系移民労働者の圧倒的多数が仏教徒であったことから、多くの寺院が建設され、そのうち本派本願寺は浄土宗に次いで正式布教を始めている。今回の調査で発見された、戦前から戦後にかけての議事録や児童向けの挿絵付きカードなどの一次資料をもとに、ハワイ社会とその文化に即した対応や工夫が行われていた事例について、日系アメリカ移民史と近代仏教史の観点から報告した。一部の資料が経年劣化で脆くなっているため、今後の課題として早急に資料翻刻やデジタル化をする必要のあることが報告された。

### 石井清純氏・南原一貴氏「ハワイ正法寺の三十三観音と駒形コレクションの史料的价值」

曹洞宗両大本山ハワイ別院正法寺での調査について、まず石井氏が「駒形コレクション」とその史料的价值について報告をされた。駒形コレクションは、ハワイ国際布教総監部の駒形宗彦総監が所蔵する数百枚の写真資料であり、2022年8月の第1回調査で190葉を複写撮影し、調査と分類をされた。内容としては広く社会活動、教育関連、曹洞宗以外の他宗派を含めた仏教行事、戦前の日系移民の生活、戦時抑留や二世部隊など多岐にわたり、仏教の役割をハワイ社会全体のなかに位置づける、史料的价值の高いものとなっているという。今後の課題として、未調査の写真資料を整理・分析していかれることのほか、正法寺にある繰出し位牌についても調査が必要であることを報告された。

つづいて南原氏は、「曹洞宗両大本山布哇別院正法寺 三十三観音」について報告された。正法寺本堂に安置される西国三十三観音は、台座の背面に施主の氏名、出身地、ハワイの住所が記載されている。一部、破損による不明箇所があるが、出身地とハワイの住所を分析したところ新潟出身者が最多であり、日系ハワイ移民全体での割合と比べると、曹洞宗の特徴であることを明らかにされた。これは新潟とハワイを結ぶ連鎖移民のルートの存在を示している。施主である信徒に関して、情報収集と確認が今後の課題であることを報告された。

### おわりに

以上の発表に対し、質疑応答ではハワイ各宗寺院やハワイ大学図書館の方々、また仏教学や日系移民研究を専門とするの方々から有益な情報をご教示いただいた。今後の調査

を進展させる上での有力な手がかりを得られ、また海外渡航の制限が漸次解除されていることから、今後はオアフ島以外の島々にも調査範囲を広げていく計画である<sup>2</sup>。

付記 本稿編集中、マウイ島で山火事が発生して多くの犠牲者があり、ラハイナの寺院がほぼ全焼してしまったとの報に接した。謹んで哀悼の意を表するとともに、一日も早い復興を心より念じ上げる。

もりや・ともえ  
(南山宗教文化研究所)

---

2. 2023年度よりJSPS科究費基盤研究(B)「ハワイ日系仏教寺院の文献資料および文化財の体系化と活用による仏教史研究」(23H00568、研究代表・安中尚史)として採択され、研究を継続中である。